

## 住民の意識向上や保全活動の普及・啓発を図るためのネットワーク研修会を開催

平成 27 年 1 月 27 日（火）に、鹿児島県の中山間ふるさと・水と土保全推進（棚田）事業の一環として、棚田等保全活動組織、県、市町村、棚田等保全協議会かごしま会員を対象に、地域おこし活動や事例の情報共有をすることにより、多面的機能を有する棚田等を保全し、次代に継承していくことを目的に研修会が開催された。

研修会には、県内 10 の棚田地域の代表者をはじめ、棚田を有する市町村、県、棚田等保全協議会かごしまの会員ら 100 名が参加した。



開会挨拶をする霜出南九州市長

平成 15 年度に観光庁より「観光カリスマ百選」に選定された、宮崎県西米良村 村長の黒木 定藏（くろぎ さだぞう）氏を招いて、「平成の桃源郷を目指す村づくり」～交流人口の拡大と移住定住の促進～と題した講演を聴講した。

宮崎県の中央西部に位置し、総面積の 96% を急峻な森林が占める西米良村。総人口は、平成 26 年 12 月末現在 1,234 人で人口の 4 割が 65 歳以上である。

講演では地域の特性を生かした村づくりを進めるために、第三セクター「(株) 米良の庄」を設立し、高齢者も現役として社会に参加し多くの交流人口を迎え入れるための「ワーキングホリデー制度」やテレビでも紹介され、年々観光客が増えている「おがわ作小屋村」の基本構想や運営協議会の話がされた。



講演をする黒木西米良村長

事例発表では、湧水町の幸田地区棚田保全対策委員会の委員長 福本 五郎氏が「幸田地区の保全活動」について発表された。

幸田地区は平成 11 年 7 月に「日本の棚田百選」に選定され、「武者返し」のそりを持った石積みが現存している。

都市部との交流を図るため、田植えや稲刈り体験、また棚田の風景を満喫して貰う「棚田ウォークイン幸田」を開催して地域の活性化に取り組んでいる。

湧水町、観光協会、幸田小学校 P T A 等の協力を得て行われる「棚田ウォークイン幸田」は、応募者が多く、たいへんな賑わいである。

また県の認証を受けている「幸田の棚田米」を利用した酒づくりにも取り組み、県内初めての清酒「幸寿」ができあがった。

最後に、幸田地区においても過疎化・高齢化が進み、活動の継続が危惧されているが、棚田は地域の資源であることを念頭に、今後も各種事業に取り組み次世代に残せるように励んでいきたいとの言葉で発表を終えた。



事例発表をする福本委員長